



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：モッタキー外相の訪日

(2日付イラン紙、イラン・ニュース紙)

6月2日付イラン紙およびイラン・ニュース紙は、モッタキー外相の訪日（5月31日）について報じている。報道の概要は下記の通りである。

1. 日・イラン外相会談

- (1) モッタキー外相は、日本をはじめとした様々な国々と、パキスタンおよびアフガニスタン問題のような地域の問題を解決するために協力する用意があると述べた。
- (2) モッタキー外相は、イラン、トルコおよびブラジル間の核燃料交換合意に関し詳細な説明を行い、「現在、基盤が整えられており、対決的雰囲気から協力的態度に移行するための機が熟している」と述べた。
- (3) モッタキー外相は、イランにおいて近く開催予定のアフガニスタン近隣諸国会議に言及し、岡田外相を同会議に招待した。
- (4) モッタキー外相は、ガザ支援船に対し、公海上にて攻撃を行ったイスラエルの野蛮な行為を批判し、国連安保理が同行為に対する非難のための速やかな行動を取ることを求めるとした。
- (5) 岡田外相は、テヘラン宣言を歓迎し、その実施のための準備がなされることを希望するとした。
- (6) 岡田外相は、アフガニスタン・パキスタン問題をはじめとする地域および国際問題の分野において、イランと二国間協力を行う用意があると述べた。
- (7) 岡田外相は、NPT 運用検討会議に言及し、核兵器の無い世界の確立のための支援への日本の関与について強調した。

2. 会談後の記者会見におけるモッタキー外相の発言

- (1) モッタキー外相は、核燃料交換（合意）は、米国の冷たい反応にもかかわらず、進行することを希望していると述べた。
- (2) モッタキー外相は、（イランと）トルコとブラジルとの合意は、「相互の信頼に基づいているため、（以前の提案とは）異なったものであるが、それが燃料交換（の提案）であることについては、以前と変わらない」と述べた。
- (3) モッタキー外相は、（イランは）日本、トルコ、ブラジルのような国々を信頼しているため、1200 キログラムの（低濃縮）ウランを日本に移送するという案についても議論されていたとし、最終的に1200 キログラム（の低濃縮ウラン）をトルコに移送することが合意されたとしつつ、（イランは）日本を含んだ4者合意となることを希望していたと述べた。
- (4) モッタキー外相は、イスラエルを、中東において唯一核兵器を保有している国だとして批判し、同国がNPTに加盟することを求めた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799